

(社)日本地すべり学会と日本応用地質学会の合同現地調査趣意書

平成16年11月29日

合同調査団長

(社)日本地すべり学会会長

新潟大学教授 山岸 宏光

(はじめに)

本来、地すべり地は人が生活するには大変優れた土地です。大昔の地すべりにより、泥岩が適度に攪乱され、耕作地に適した緩斜面を形成し、豊富な湧水とあわせ肥沃な土地を形成しています。このため、平野のすくない我が国の山間地においては、こうした地すべり地形が古くから棚田として活用され、豊かな生産の場として、また美しい景観として人々の生活を潤しています。

とくに新潟県は典型的ともいえる地域であり、先人の教訓に基づき、地すべりとは長いつきあいをしながら、生活をしてきました。今回、直下型の新潟県中越地震災害が、こうした豊かな中山間地を襲ったため未曾有の土砂災害が発生しました。

そこで、地すべり・崖崩れなどを主な対象とする専門家からなる(社)日本地すべり学会は、応用地質学の専門家集団である応用地質学会の協力を得て、ランドスライドダムなどの発生した山古志村を始めとする土砂災害地域を現地調査することになりました。災害発生原因のみならず、間近に迫った積雪期・融雪期の危険度判定、さらには長期的視野にたった土砂災害対策や復興方策を、専門的立場から検討させていただき、被災地が見事に復旧されるように両学会とも微力ながらお手伝いさせていただければと考えています。

1. 両学会の紹介

(社)日本地すべり学会は、地すべりの調査・研究・対策工の立案に携わる全国の大学・国の研究機関・民間などの研究者、技術者および行政の実務に携わる方々で構成され、地質学、地形学、土質工学、森林工学などさまざまな専門分野からなり、現在2000名の会員で構成されています。とくに、最近では、本学会が国土交通省の各事務所、岩手県や宮城県から依頼されて実施した地すべり危険力所調査手法検討業務などの実績があります。

日本応用地質学会は、人間の自然に対する生産活動を地質学の立場から調査・研究する各界の研究者および技術者で構成されています。研究分野は土木地質、農林地質、水理地質、災害地質等に加えて、近年においては環境問題を取り扱う環境地質にも取り組んでいます。現在正会員および賛助会員併せて2千数百名に達する組織になっています。

今回(社)日本地すべり学会と応用地質学会の災害地質を主に研究しているグループは合同で現地調査を行うことを計画し、現地調査を申請する次第です。

2. 災害発生後の対応(特に地すべり分布図の作成)

災害発生後、両学会はただちに調査を行い、適切なアドバイスを行いたいと考えていましたが、人命救助および復旧作業を最優先に考え、地元の方々の迷惑にならない時期まで調査を控えさせていただいておりました。

この間に、空中写真による写真判読を行い、1/2.5万の地すべり分布図を作成し、(社)日

本地すべり学会のホームページに掲載しました。この分布図は研究者や実務に携わる技術者には大変好評でしたが、写真判読のみで作成しているため、地すべりや崖崩れの細かい実態を把握するには不十分です。したがって、降雪時期も近づいており、調査から得られる貴重な成果を今後予想される降雪時や融雪時の地すべり災害を防止する対策に反映させるため、やむを得ずこの時期に現地調査することになりましたことをご理解いただければと存じます。

3. 今回の調査目的

地すべりと崖崩れは総数で1800カ所に達すると言われていています。すべてのカ所を2日間で調査するのは無理であるため、今回はモデル地区を選び、以下のような目的で現地調査を実施する予定です。

地すべりのタイプ分けをおこない、災害形態の分類を行う。

古い地すべり地形の分布と今回の地震による地すべり分布を対比させその特徴を把握する。

地すべり対策を行っている地すべりと、優先順位の関係でまだ対策が行われていない地すべり地における地震時の変動形態の特徴把握。

モデル地として選んだ地すべりの危険度判定を試み、降雪時や融雪時の安定度について検討する。

4. 今後の方針

(社)日本地すべり学会では11月24日に開催された幹事会において、「新潟県中越地震による土砂災害研究委員会」を3年間設置する方針を決定し、日本応用地質学会と共同研究することになりました。両学会はこれからも地域住民の良き相談相手となり、今後予想される2次災害に対し、危険かどうかのアドバイスや長期的な対応方針についても提言していきたいと考えています。

なお、調査結果は両学会のホームページに掲載するとともに、関係市町村にはレポートを提出する予定です。レポートは今後も定期的に発行する予定です。

(おわりに)

調査においては地元の皆様には御迷惑を掛けることもあるかと思いますが、ご配慮賜りたいと存じます。これからも両学会との長いおつきあいをお願いいたします。